

防災対策4

地震から身を守るための対策



被災した熊本県益城町の様子（緊急消防援助隊として派遣された津山圏域消防組合職員が撮影したもの）

阪神・淡路大震災や東日本大震災、新潟県中越地震などでは、多くの人が倒れてきた家具の下敷きになって亡くなったり、大けがをしたりしました。また、この度の熊本地震でも家屋の倒壊などの被害が出ています。

地震の発生に備えて、自分や家族の身を守るための「家の中の防災対策」について紹介します。

いつ起こるかわからない地震に備え、家の中をチェックしてみよう



築山さん

家の中での地震対策

①寝室や子ども部屋には、出来るだけ背の高い家具を置かない

家具を置く場合はなるべく背の低い家具にするか、必ず転倒防止対策を行いましょう。

②家具の向きや、配置を工夫する

家具が倒れてけがをしたり、出入り口を塞いでしまわないように配置しましょう。

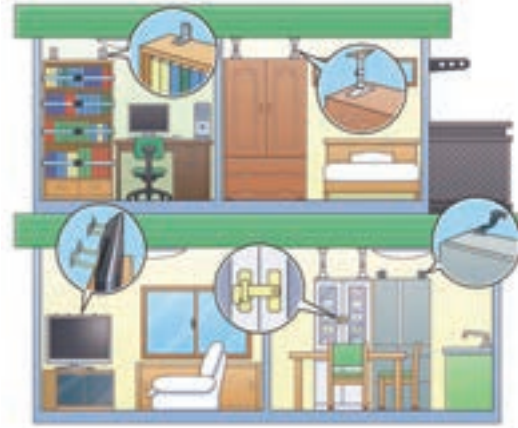
③家具などの転倒・落下防止対策を行う

家具のほか、テレビや冷蔵庫なども、地震発生時に転倒すると大変危険です。

④懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備える

停電時に使用する懐中電灯や、割れた窓ガラスなどでのけがを防止するスリッパ、救助を求めるためのホイッスルなどを、手の届くところに備えましょう。

⑤家具の転倒防止や食器棚の戸などにも、開かないように留め金具などを付け固定する



出典：「政府広報オンライン」

防災対策について調査した感想

身近なものが防災に役立つことを知り、防災に関して高い意識を持つきっかけになりました。一人ひとりが防災に関する知識を身に付けることで、平常時から備えることができ、より安全な暮らしができると思いました。



信定さん

築山さん



大塚さん

矢野さん

災害は、「まさか」ではなく「いつか」は起きるものという意識を持って、家庭などで命を守るために、「今日からできる防災対策」を実施してください

市では、大雨・洪水・暴風などの「警報」が発令されると、市役所本庁や各支所・出張所に災害警戒（対策）本部が設置されます。災害の発生やその兆候を発見したら、下記まで連絡してください。

- 津山市災害警戒（対策）本部 ☎23-2130
- 加茂支所市民生活課 ☎32-7032
- 久米支所市民生活課 ☎32-7011
- 勝北支所市民生活課 ☎32-7021
- 阿波出張所地域振興課 ☎32-7042

防災対策3

突然の大雨に備える浸水対策（6月は土砂災害防止月間です）

平成26年には、市内でも床上、床下浸水が発生しています。いつ、どこで起きるかわからない突然の大雨による浸水に備えるため、普段からできる防災対策を紹介します。

浸水に備える

1. 落ち葉やごみでふさがれている雨水ますを清掃・点検する



清掃前



清掃後

平常時から自宅の周りを点検したり、町内会の環境整備などで清掃したりすることで、水路から水が溢れることを防ぐ対策になるんですね



大塚さん

2. 土のうを準備する



津山市総合防災訓練（平成27年11月8日実施）での消防団加茂方面隊による訓練指導の様子

取り組み事例紹介 地元の消防団で土のうを準備

消防団では、依頼を受けて地域の皆さんへの訓練指導を行っています。土のうの積み方などの防災訓練をすることで、いざという時にも焦ることなく行動できます。

また、地域や家庭で土のう袋や砂などを常備して災害に備えておくと、台風の接近時など、いざという時にも安心です。

※土のう袋や砂は、市内のホームセンターなどで販売されています



中司 知利さん
（津山市消防団 加茂方面隊長）

もし、浸水しそうになったら…

1. ごみ袋で簡易水のうを作る



ビニール袋に水を入れる



水のうを段ボールに入れる



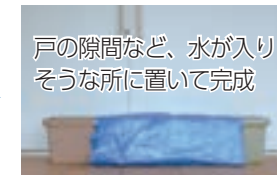
板を置き水のうで固定する

2. プランターとレジャーシート（ブルーシート）で止水する



土の入ったプランターをシートで包む

ポリタンクを使っても止水できます



戸の隙間など、水が入りそうな所に置いて完成

ごみ袋やプランターなど、家庭にあるものを使って浸水を防ぐことができます



信定さん